

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 17 日現在

機関番号：15401

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2014

課題番号：23653268

研究課題名(和文) 高校生の進路選択における保護者の役割に関する国際比較調査研究

研究課題名(英文) An International Comparative Study on the Role of Parents for High School Student's Career Pathways from High School to College

研究代表者

高地 秀明 (KOCHI, HIDEAKI)

広島大学・入学センター・教授

研究者番号：70403508

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：高校生の高等教育への進路選択プロセスに、保護者がどのように関与しているのかは、我が国を含め多くの国において大変関心の高いテーマである。本研究では、日米豪韓にある4都市の高校生とその保護者、さらに高校教員等に対して、質問紙調査とインタビュー調査を実施した。その結果、共通点と相違点が見いだされた。共通点の一つには、いずれの地域の高校生も進路に対する不安感を持つということがあり、相違点としては、特にハワイ州において、より長期的視点から保護者が関わっていること、我が国の高校生がもっとも保護者と進路について相談していること、等が明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：The role of parents of high school students in the processes for them to select which fields of study in university and which universities they would apply is a very interesting research subject not only in Japan but also in many countries. In this study, questionnaire and interview with students, parents, teachers, and other related persons had been carried out in 4 regions in 4 different countries (Japan, U.S., Australia, and Korea). We found that each country's students have similar anxiety to their future career, and, on the hands, their parent's role to affect in their children's selection process to universities and colleges are different among different countries.

研究分野：教育社会学

キーワード：高校生の進路選択 高校生の進路と保護者の役割 高大接続

1 . 研究開始当初の背景

研究代表者である高地は平成 15 年度～平成 17 年度科学研究費補助金基盤研究(A)(1)(課題番号:15203031)「中等教育の多様化に柔軟に対応できる高大接続のための新しい大学入試に関する実地研究」の一部として、「大学生のキャリア形成のプロセスに関する調査」研究を分担担当した実績がある。

この研究では、大学入試における意思決定の要因や入学後の意識の変化や将来の進路についての考え方を明らかにしようとするものであった。最適な入学者選抜方法や内容を開発していくためには、受験生及び大学在学学生の実態を出来るだけ正確に把握する必要があり、この研究によって進路選択に関するさまざまな要因が明らかとなった。一つには、キャリア形成を支える人間関係のうち、他者としての保護者の役割の重要性が示唆された。一方、米国におけるキャリア教育としての進路指導に関しては、これまでに精力的な研究報告がなされている。

2 . 研究の目的

中等教育から就労職種選択までのキャリアパスをみた場合、その決定を促すさまざまな要因が考えられる。またキャリアパスを自ら形成する際に、その形成過程を明らかにすることで、中等教育と高等教育の接続システムの改善を促すと考えられる。

そこで本研究では、特に高等教育を目指す志願者の家族内人間関係である保護者との関係に着目し、キャリアパス形成への役割を明らかにすることを主な目的とする。保護者の役割は、社会・文化的に異なる集団であれば、異なる役割を担っていると考えられるので、北米・東アジア・オセアニア地域で保護者や高校教員など

高校生にとって重要な他者に対する調査を実施する。得られたデータを基に、これら指標への役割の違いを分析することで社会・文化的特性を明らかにし、国内の高等教育改善への大変重要な知見を得ることが可能であると考えられる。

3 . 研究の方法

高等教育への進学に関する進路決定プロセスにおいて、保護者の役割がどのようなものであるかに関する国内外の比較調査はこれまでに少ない。本研究では量的分析とインタビューを通じた質的分析を実行する。既に我々はさまざまな機会を通して、高等教育への進学を検討している保護者へのアンケート調査を一部実施済みであり、さらに直接の面談等の経験を有する。国外における調査研究との比較を実行することで、国内における保護者の役割の実態がより明らかになると考える。

研究計画 1 年目(平成 23 年度)では、まず国内と国外(米国)における量的分析調査と一部のインタビュー調査における予備調査を行った。国内では、大学説明会において保護者対象のアンケートを実施し、約 250 名分の回答を得た。また、米国の高等学校と姉妹校締結を行っている国内の二つの高等学校の協力を得て、生徒と保護者に対するアンケート調査を実施した。国内の調査回答数は生徒約 800 名分と保護者が約 300 名分、米国の高校では、約 100 名分の回答を得た。

研究計画 2 年目(平成 24 年度)は、オーストラリアにおける 2 つの公立高校と 1 つの私立高校、さらに 2 つの州政府の教育省において調査が実施できた。この調査では、主に高校教員や州政府担当職員へのインタビュー調査を実施した結果、進路支援としての日豪の学校組織の

相違，高校教員の役割や意識について把握することができた。さらに，保護者へのインタビュー調査から，日本の保護者との共通点や相違点等についても理解することができた。以上の実施内容から，高校生とその保護者の進路に対する意識において，互いが同じ理解をしている事柄と異なる理解をしているもの，また部分的ではあるが，日米豪の高校生とその保護者の意識や互いの関係性について理解することが可能となった。

研究計画3年目(平成25年度)には主に米国(ハワイ州)において，2つの公立高校，1つの州立大学及び教育省が関与しているP-20partnership と呼ばれる組織に対して，現地においてインタビュー調査を実施し，また資料収集を行った。その結果，米国(ハワイ州)においては，(1)日本やオーストラリアとは異なり，幼児教育から高等教育までをも包括したP-20 と呼ばれる時間軸上で非常に長い視点による教育システムの構築を目指していること，(2)高校ではカウンセラーの役割として，大学進学における奨学金の獲得があること，(3)大学教育の一部(準備教育に通じる内容)が高校の中で実施されていること，がわかった。

(1)のP-20では，育成すべきコアとなる能力が設定され，州内の一斉学力テスト，学校別の卒業後，SAT スコア等さまざまな共通指導により評価がなされている。(2)では，日本以上に大学の授業料が高い傾向にあることが原因であるが，カウンセラーの力量は生徒が奨学金を受給できる大学を探し出してくる，ということにもある。(3)については，米国の多くの州においても同様だが，日本と異なり，特に自然科学の分野では，先端的な学修をより早く提供すべきである，という考えが一般的であった。

研究計画最終年度(平成26年度)は，これまでに得られている日本(広島)，オーストラリア(タスマニア州，シドニー州)及び米国(ハワイ州)における調査結果を踏まえ，韓国においてインタビュー及び質問紙調査を実施した。インタビュー調査対象機関は，国立工業高校，私立高校及び国立総合大学であり，このうち私立高校ではアンケート調査も併せて実施した。これらの結果，(1)ソウル市に立地する大学への極めて強い進学指向の存在，(2)進路について相談する相手としての高校教員の低い割合，(3)我が国と類似した進路決定プロセス(文系，理系等)，等が明らかになった。(1)については，社会的にも若年人口のソウル市への大きな流入が見られ，高校生及び保護者は，ソウル市の大学に進学することを第一と考える傾向にある。また，(2)については，進路の相談相手としての保護者の割合は我が国と同程度である一方，高校教員の割合は先行研究でも指摘されているとおり低くなった(アンケート調査結果)。(3)については，中等教育における我が国との類似性から，大卒では高大接続制度においても類似した内容を持つ。ただし，大学入学者選抜の点では，短期的に急激な改革を断行した韓国と我が国との相違点は大きい。

4. 研究成果

高校生の高等教育への進路選択プロセスに，保護者がどのように関与しているのかは，我が国を含め多くの国において大変関心の高いテーマである。本研究では，日米豪韓にある4都市の高校生とその保護者，さらに高校教員等に対して，質問紙調査とインタビュー調査を実施した。その結果，共通点と相違点が見いだされた。共通点の一つには，いずれの地域の高校生も進路に対する不安感を持つということがあり，相

違点としては、特にハワイ州において、より長期的視点から保護者が関わっていること、我が国の高校生がもっとも保護者と進路について相談していること、等が明らかとなった。

本研究により明らかにされた各国の高校生の進路選択プロセスと保護者の役割に関する特徴について、今後、さらに東南アジア地域まで拡大し、今後の高大接続の在り方を検討したい。特に、近年のグローバル化した我が国の大学にとって、各国の高校生の意識を把握することは、極めて大きな意味を持つと考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

1. 永田純一、高地秀明、杉原敏彦、ハワイ州における高大接続プログラム、大学入試研究ジャーナル、25 巻、査読有、2015、pp123-128

2. 永田純一、高地秀明、杉原敏彦、高校生の進路意識と保護者の関与について、大学入試研究ジャーナル、24 巻、査読有、2014、pp143-148

[学会発表](計 3 件)

1. 永田純一、高地秀明、杉原敏彦、ハワイ州における高大接続プログラム、平成 26 年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会(第 9 回)、2014 年 5 月 30 日、アイーナいわて県民情報交流センター(岩手県・盛岡市)、

2. 杉原敏彦、高地秀明、永田純一、高校生と保護者の進路意識に関する国際比較 広島とハワイ州におけるアンケート調査を通して、日本高等教育学会(第 16 回大会)、2013 年 5 月 26 日、広島大学(広島県・東広島市)、

3. 永田純一、高地秀明、杉原敏彦、大学志願

者における保護者の進路支援意識と大学広報、平成 24 年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会(第 7 回)、2012 年 6 月 2 日、岡山コンベンションセンター(岡山県・岡山市)、

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高地 秀明(KOCHI HIDEAKI)
広島大学・入学センター・教授
研究者番号:70403508

(2) 研究分担者

永田 純一(NAGATA JUNICHI)
広島大学・入学センター・准教授
研究者番号:70330959

(3) 研究分担者

杉原 敏彦(SUGIHARA TOSHIHIKO)
広島大学・入学センター・教授
研究者番号:00379851